

加茂農林高等学校

自然科学部



▲部室では宮浦池にいる魚などを飼育、観察しています。

今回の工事に際し、宮浦池の環境調査などの貴重なデータを市へ提供してくれた、加茂農林高等学校自然科学部の取り組みを紹介します。

自然科学部では、自然豊かな宮浦池の環境を永続的に保全することを目的に、さまざまな取り組みや研究を行っています。

その主な取り組みとしては、護岸工事が生物層に与える影響を調査しようとして、自然のままの宮浦池とコンクリートで護岸整備された近くの池の魚類や昆虫類の生息調査を行いました。その結果、自然のままの宮浦池は、生物種が多種多様であり、コンクリートによる護岸整備は、生物層の単純化につながることが分かりました。

そのほかには、宮浦池周辺の野鳥調査を行い、2002年6月5日にはオオタカが宮浦池に飛来し、ドバトを捕らえて飛び去った食餌行動を2時間以上観察し、写真撮影しました。また、市民などを対象とした野鳥探鳥会や昆虫教室を実施し、自然環境保全を啓発しています。

今年度は、こうした今までの取り組みが評価され、「愛鳥週間野生生物保護功労者」の環境大臣賞を受賞しました。

今年度に入ってから、宮浦池でしゅんせつ工事が実施されたこともあり、しゅんせつ前に池にいる魚や貝などを捕獲し仮設池に移す作

▼池のしゅんせつ工事に伴う、魚などの移設作業の様子



業や、しゅんせつ後に仮設池の魚を池に戻す作業の時には、自然科学部の生徒が大活躍しました。

また、市のまちづくり出前講座にも、夏休み期間の平日に、魚や昆虫調査のメニューを出しています。

現在は、ドブガイがないと生息することができないという変わった習性を持つタイリクバラタナゴを、ドブガイとともに宮浦池から採取し、産卵する様子を観察しています。



▲魚の調査のため、宮浦橋から釣りをする部員たち